

[果樹部門]

8. ネギアザミウマが加害する「マスカット」果粒の生育ステージ

[要約]

ネギアザミウマは「マスカット」の幼果期にはほとんど加害せず、主に硬核期以降に加害する。加害部位は花柱痕周辺部で、白斑症状を生じて褐点病被害を助長する。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 病虫研究室

[連絡先] 電話086-955-0543

[分類] 情報

[背景・ねらい]

施設ブドウ「マスカット・オブ・アレキサンドリア」（以下「マスカット」）は、ネギアザミウマの加害によって果粒の花柱痕周辺部に白斑症状を伴う褐点病が生じ、品質低下の大きな要因となっている。ネギアザミウマの発生ピークは、5月下旬から6月下旬であるが、その時期の「マスカット」果粒の被害程度は作型により異なる。そこで、ネギアザミウマが「マスカット」を加害する果粒の生育ステージを明らかにし、防除の資料とする。

[成果の内容・特徴]

1. 「マスカット」の幼果期の果房にネギアザミウマを放虫し、成熟期に果頂部を調査した結果、花柱痕周辺部に白斑症状はほとんどなく、ネギアザミウマが関与した褐点病被害も認められない（図1、2A）。
2. 「マスカット」の硬核期又は果粒軟化期の果房にネギアザミウマを放虫し、成熟期に果頂部を調査した結果、半数以上の果粒の花柱痕周辺部で白斑症状が認められ、褐点病被害も目立つ（図1、2B、2C、3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本調査は、「マスカット」の雨除けハウスで行い、ネギアザミウマを、幼果期（6月10日～6月24日）、硬核期（7月5日～7月18日）、果粒軟化期（8月4日～8月15日）に果房毎に放虫した。
2. 放虫は、ネギアザミウマの成幼虫約40頭を入れたゴース（薄い布袋）を果房にかぶせて行った。

[具体的データ]

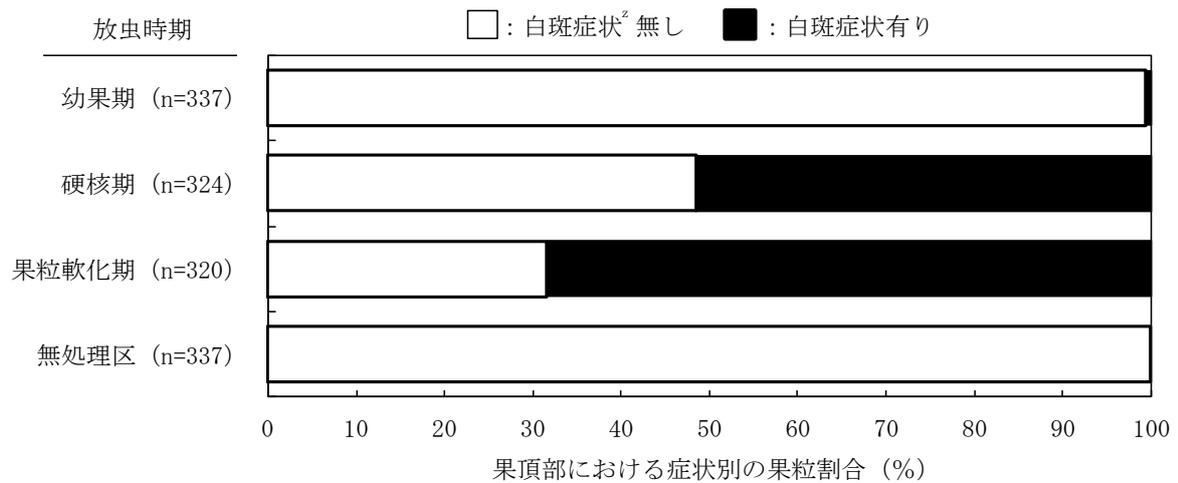


図1 ネギアザミウマの放虫時期が果頂部被害に及ぼす影響
^z白斑症状：ネギアザミウマによる加害痕、n=調査果粒数

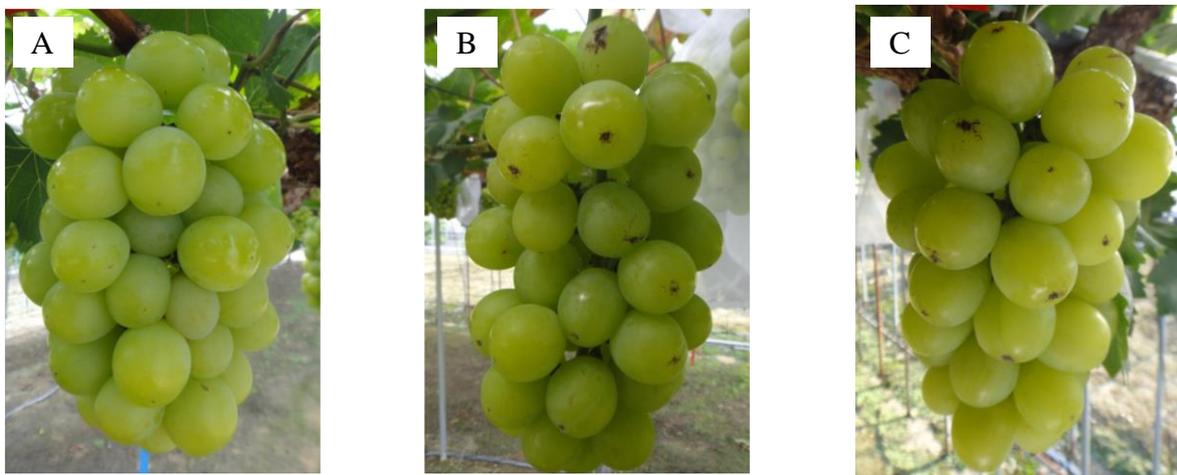


図2 ネギアザミウマを放虫した果房の褐点病被害（成熟期）
 ネギアザミウマの放虫時期：A；幼果期、B；硬核期、C；果粒軟化期

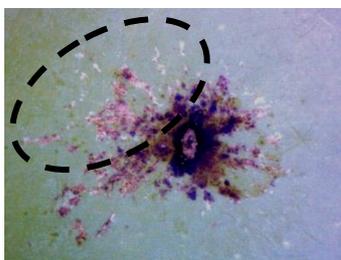


図3 ネギアザミウマ加害による花柱痕周辺の白斑症状（点線で囲んだ部分に白斑がある）と褐点病の症状

[その他]

研究課題名：ブドウのチャノキイロアザミウマの防除対策の確立

予算区分：交付金（難防除病害虫防除技術確立事業費）

研究期間：2012～2014年度

研究担当者：薬師寺 賢

関連情報等：[平成25年度試験研究主要成果、47-48](#)